6-5　実践協力校における授業実践
事例⑤　秦野市立大根小学校
４年生　総合的な学習の時間

ポイントになる主な学びのプロセス

- **自分の身の周りのできごとに関心をもつ**
- **学級、学校、地域等の課題に気付く**
- **他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**

Ⅰ　単元計画

１．単元名　小学校第４学年　総合的な学習の時間「制服か私服か～わたしたちの未来」

２．単元の目標

・大根中学校の私服化の経緯を知ることで、先輩の苦労や思いを知るとともに、その場にふさわしい態度（服装を含む）の価値を理解し、よりよい社会（学校生活）に参画することができる。

３．単元の指導計画（５時間扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
1	◇これまでの学校生活を振り返り、これからの学校生活（５年・６年・中学生）について、学校行事や委員会活動など、高学年の活動からさらに視野を広げ、中学生としての未来の学校生活に関心をもつ。 ◆自分たちが進学する予定の大根中学校が私服であることについての感想を聞き、制服と私服のどちらがよいか（また考え中であるか）を考える。
2	◇大根中学校の制服の自由化の経緯を知り、将来の進学先の中学校の特色に気付く。 ◆生徒会の制度や当時の生徒会の活動についての情報を知り、整理する。 ・「服育」という言葉を通し、場面や立場にふさわしい服装があることを　理解する。 ・当時の大根中の先生に、制服の自由化の経緯についてインタビューする。
3	◇制服か私服のどちらがよいか、様々な人から意見を聞き、自分の考えを構築する。 ◆保護者や学校の先生、兄弟を通じた中学校の先輩・地域の人などから意見を聞き取り、それらの意見を参考に、制服か私服のどちらがいいか自分の意見（立場）を決め、その理由を書く。
4 本 時	◇私服か制服かどちらがよいと思うか話し合うことで、異なる意見や他者の考えをふまえ、自分の考えを深める。 ◆自分の意見を、根拠を持って伝えあい、授業の間に意見が変わった場合は、マグネットや赤白帽子で意思表示する。 ◆大根中学校の校長先生の話を聞く。
5	◇活動を振り返る。 ◆自分たちの学校生活は、自分たちでより良くしていくということの価値を理解し、将来、よりよい学校生活に参画する視点をもつ。

Ⅱ　本時の様子

1．本時の目標　〇異なる意見や他者の考えをふまえ、自分の考えを構築し、ひとつの意見に集約しようとする（合意形成をめざす）姿。

2．本時の展開

「政治的教養を育む教育」で身に付けさせたい力の視点

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	〇　話し合う議題を確認し、決定の方法について議題と照らし合わせて決め方を選ぶ。 **課題：制服か私服か、どちらがよいか話し合おう**	
展開	〇話し合いをする。 ＊決め方について確認する。また、少数意見を尊重する観点から、誰から意見を言うべきかを確認する。 ＊ネームプレートや赤白帽子で意思表示をすることで、主体的な参加意識を持つ。 ＜話し合いの座標軸＞ 自分で決めたい 私　服　―　制　服 決まったものでよい 〇合意形成を図る。 ＊決められない場合は、合意形成の難しさとその価値について価値づける。	異なる意見や他者の考えを受け、自分の考えを深め、ひとつの意見に集約しようとしている。 他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する。
ま と め	〇大根中学校長の話を聞く。 ＊小中連携の視点から、ゲストティーチャーを招いた。	

目指す子どもの姿
- 自分たちの将来について見通しを持ち、課題について調べたり話し合ったりする中で、自分の考えを広げたり、深めたりする姿。
- 多様な考えの中から折り合いをつけ、一つの意見に集約しようとする姿。

Ⅲ　研究協議



1．自評

〇「小・中学校における政治的教養を育む教育」においては、自分のこととして真剣に話し合い、物事を決めるという実感の積み重ねが重要である。自分たちで決めていくことも大切だが、すでに定められたルールでも、それを吟味していくことに話し合いの価値があると考え、身近な中学校で生徒の自主的な取組が制服の自由化につながった経緯や当時の人々の思いを知ることを含め単元構想をした。

〇どちらかに決めることの難しさやそれぞれの意見を尊重する態度、自分の意見に固執せず、仲間の意見を聞いて自分の意見が揺れたり変わったりすることを普段から大切にしている。

2．研究協議のテーマ

〇「発達段階に応じた合意形成」について（発達段階を考慮した上で、どこまで求めることが適切か）

3．研究協議の成果と課題

成果・合意形成の在り方を児童が身に付けるためには、様々な手法（ジャンケン、多数決、折り合い決め、オーディション）を事前に整理し、どれがふさわしいかを児童生徒と共有することが重要である。

・家族や先生など身近な人の意見を収集することは、課題を多角的にとらえることにつながる。

課題・中学年段階では、様々な視点や意見をふまえた上で自分の考えを持つという点をまずは重視すべき。

・課題の妥当性（ひとつに決める必然性があるかどうか）を吟味する必要がある。また、折り合いをつけるにしろ、一つにしぼって決めるにしろ、「決めて」が何なのか、または折り合いをつけるための視点は何なのかを、授業者が黒板に書いたり聞き返したりしていくことも必要。

Ⅳ　実践協力校での授業実践を基にした指導事例

H30-１　小学校　４年生総合的な学習の時間　指導事例
「制服か私服か～わたしたちの未来」

【単元目標】
・近隣の中学校の私服化の経緯を知ることで、先輩の苦労や思いを知るとともに、その場にふさわしい態度（服装を含む）の価値を理解し、よりよい社会（学校生活）に参画することができる。

【目指す子どもの姿】
・自分たちの将来について見通しを持ち、課題について調べたり話し合ったりする中で、自分の考えを広げたり、深めたりする姿。
・多様な考えの中から折り合いをつけ、一つの意見に集約しようとする姿。

１　本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学　習　活　動（全５時間）	ポイントになる学びのプロセス
学習問題の決定①　＊例：学校生活を振り返り中学校生活を想定しよう Ｔ：もうすぐ５年生になるね。高学年になると、委員会活動も始まり、運動会の係活動も大切な役割になるよ。そして、あっという間に卒業して中学生だね。 Ｃ：私たちが進学するＡ中学校の生徒は制服を着ていないけど、この前見たドラマだと制服があるよ。制服は大人っぽい気がするし、着てみたい！ Ｃ：私は私服の方がいいな。　　Ｃ：うーん、どっちがいいかな…。 Ｔ：そもそも、Ａ中学校は、なぜ普段は制服を着ないのか、気にならない？ Ｃ：気になる！ Ｔ：じゃあ、調べてみようか？	**○自分の身の周りのできごとに関心をもつ**
学習問題に関わる経緯と向き合う① ・制服の自由化の経緯を調べ、当時の生徒会役員や中学校教員に話を聞く。 ・それぞれの立場や場面にふさわしい服装があることを、確認する。	
身近な人々から、様々な意見を聞いてみよう①　ポイント1 ・制服か私服かどちらがよいと思うか、身近な人々から、様々な意見を聞いた上で、自分の意見を決め、その理由を考える。	**○課題について考える**
考えた意見を仲間に伝え、ひとつの意見にまとめよう①　ポイント2 ・制服か私服か、どちらがよいと思うかを、根拠を持って意見を伝え合い、授業の間に意見が変わった場合は、マグネットや赤白帽子で意思表示する。 Ｃ：私服だと、自分の個性を出すことができると思う。 Ｃ：でも、ひょっとしてからかわれないか、心配。それに、みんなが制服だと、一体感があるから制服がいい。おしゃれや個性や学校が休みのときに出せばいいよ。 Ｃ：制服は値段が高いし、スカートは動きにくいと思う。 Ｃ：私服を何着も買うより安上がりだよ、それに、ジャージだってあるよ。……	**○他者の考えを聞く（自分の考えを再構築する）**
活動をふりかえろう① Ｃ：最初にみんなで「一つの結論を出そう」と決めていたけど、私服派も制服派もどちらの理由もわかる気がする。一つに決めるって、難しいなあ。 Ｔ：そうだね。でも、一生懸命話し合った経験は、本当に中学生や大人になったときにきっと役に立つと思うよ。	

2　政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

身近な人々から聞いた意見を参考に、根拠を持って自分の意見を出せる環境を整えましょう。

中学年の児童は、物事を主観的にとらえてしまいがちですが、徐々に多角的な視点で物事をとらえる能力の素地は備わっています。なぜなら、自分は「A」だと思っていても、家族や先生、級友たちの意見が自分と異なる場合や、たとえ同じ「A」の意見でもその理由や根拠が自分と異なる場合があることをすでに経験しているからです。**身近な人々の意見を聞き、それらも含め自分の意見の根拠とする経験を積むことは、他者の意見のよさや価値を認め、徐々に多角的な視点で物事をとらえる力を身に付けさせることにつながります。**



さらに、**児童が意見を出しやすい環境を整える**ことも、授業者の大切な役目です。挙手や言葉で表現するだけでなく、発声が苦手な児童には、ネームマグネット等を黒板に貼ることで意見の表明が可能です。また、二項対立の意見を表明する場面では、児童が持っている赤白帽子をかぶることで（考え中や、迷っている児童は帽子を脱ぐ）、誰がどんな意見を持っているかが、一目瞭然です。



話し合いの最中に、級友の意見を聞いて自分の意見が変わった児童は、ネームマグネットの場所を変えたり、赤白帽子をかぶり直したりするだけで、学級全体に意見を変えたことを表明できます。また、児童自身が「意見を変えたこと」を行動で示すことで、自分自身の変容を振り返りやすくなります。

ポイント2

児童の発達段階や学習問題に応じた合意形成の在り方を工夫しましょう。

合意形成には、さまざまなかたちが存在し、その進め方にもさまざまな方法があります。給食で牛乳やおかずが余ったときに、おかわりができる児童を決めるために「じゃんけん」を行う場合があります。しかし、運動会のリレー選手を決めるときには、別の方法を取ることが多いのではないでしょうか。**児童の発達段階に応じて、様々な合意形成の在り方を提示し、「今回の学習課題は、どの決め方がふさわしいか」について、授業者と児童たちの共通理解のもとに学習を進めていく**ことは、多様な意見や立場を尊重し合う姿勢を育むことにつながります。

また、**少数意見を尊重する態度を養うためには、発言のルール作りなどの工夫も効果的です。**

総合的な学習の時間（小学校中学年）における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開

T：これから、制服か私服か、どちらがよいと思うかを話し合います。**決め方は何がふさわしいと思いますか？**

C：多数決は、いやだな。

C：今回は、折り合い決めだと思う。

T：みんな、折り合い決めでいい？あと、**誰の意見を最初に聞いたらいいですか？**

C：帽子をかぶっていない人！

T：そうだね、みんなもそう思う？……じゃあ、○○さんから、どうぞ。（後略）

ポイント2

授業者は、**合意形成の在り方や、少数意見の尊重を意識した問いかけ**をしています。